

略歴と業績

真 殿 達

1. 略歴にかえて

1947年7月28日：京都市上京区紫野大徳寺町生まれです。大徳寺の巨大な境内が遊び場でした。父は大阪で会社を経営していました。ところが朝鮮戦争後、経営が傾き倒産し、小学校一年生の時に夜逃げ同然で京都から東京に出てきました。物心がついていましたので鮮明に覚えています。

1954年10月：京都から東京へ。京都市立待鳳小学校から東京都世田谷区立代沢小学校転校、当時、強い関西弁でしたのでなかなか東京の学校に馴染めなかったのをよく覚えています。

1957年1月：代沢小学校3年生の3学期に法定伝染病の赤痢にかかり、はじめ流感（今でいうインフルエンザ）と診断されたことから手遅れ状態で入院、臨死体験を経験しました。その時の光景は今なおはっきり覚えています。一命をとりとめたものの、退院後も微熱が続き結核と診断され、そのまま長期欠席となりました。担任の先生が奔走してくださったお陰で、長期欠席にもかかわらず落第せず4年生にしてもらえました。この結核の療養中に、祖母が死去し、初めて人の亡くなるのを目の当たりにしました。祖母の死に立ち会ったり自分が死にそうになったことで、以後子供なりに死ぬことが怖いと思うようになりました。

1959年4月：引越しのため代沢小学校から世田谷区立桜町小学校に転校しました。

1960年4月：世田谷区立深沢中学入学、地元の公立中学です。

1962年11月23日：母が急性盲腸炎で入院しましたが、手術がうまくゆかず入退院を繰り返すことになりました。盲腸に癌ができていたのです。10回以上の手術の後65年10月28日死去しました。長い間七転八倒の苦しみに耐えた挙句でしたので、悲しいと同時に母が苦しみから解放されたという思いもありました。

1963年4月：東京都立戸山高校入学、当時は都立高校としては日比谷高校と並ぶ受験校で優秀な生徒が集まっていました。

1965年1月～67年11月：高校2年の3学期に風邪をこじらせた挙句に腎臓炎になり、その後高校を長期欠席することになりました。その間に母が亡くなり、その後も長期欠席を続け、事実上休学状態でしたが、高校は3年で卒業させてくれました。腎臓炎が癒えぬまま家でぶらぶらして鬱病状態にも陥りました。

とにかく大学だけは入っておこうと思い1967年早稲田大学政治経済学部に入學し、11月ころまで休んでいました。死のうかなとも思い大学1年の夏に滅茶苦茶な肉体労働のアルバイトに出かけ数週間やり抜いたのですが、途中で、激しい下痢が続くようになり最後は風邪をこじらせたのか咳をすると喉の血管が切れ激しく吐血しました。

この間に一挙に体重が20kg減っていました。吐血してみても、今度は死ぬのが怖くなり、まじめに寝ていました。そうすると腎臓炎も癒え、アルバイトと家事と父の起業



した会社経営の手伝いに専念することにし、大学は期末試験以外出席しませんでした。ただ、要領よく4年で卒業、成績は全優でした。当時は大学に行かなくても期末試験さえ受ければ卒業できたのです。

振り返ると、本当の学歴は高校中退という感じがします。高校途中から学校へ行かずに落ちこぼれてゆく自分が情けなく、せめて英語くらいやっておこうと思い、暇を見つけて英字新聞とサマーセット・モームの小説をよく読みました。銀行に勤めるようになってから、東南アジアや旧ソ連東欧、もちろんロンドンやパリに出張するとモームの作品に出てきた場所や食事などが懐かしく思い出され、銀行を辞めて麗澤大学に勤めるようになってから日本サマーセット・モーム協会に入れてもらって今もその会員です。

大学ではゼミを除名され、就活もどうしてよいか全くわかっていませんでした。大学4年の4月に戸山高校の同級生が心配して訪ねて来てくれ、日本輸出入銀行というところがあると言うので、その翌日訪ねました。運良く、その場で人事部長との面接があり、翌日の役員面接で内定をもらいました。1970年4月22日友人来訪、23日輸銀初訪問、24日内定ということですので、これといった就職活動もせず、どんなところかもわからぬままに、勤め先を決めた格好です。

その後は以下のようなサラリーマンのキャリアです。何もわからない銀行でしたがまじめに過ごすうちに物事が見えるようになって、それなりに思いを込めて仕事ができたとします。麗澤大学のキャリアセンター長になって学生諸君に「学生時代に生涯かけてやりたいことなどわかるものではない。懸命にやっているうちに仕事ができるようになり好きになる。振り返ればそれがやりたいことなのだ」と言っていたのは、自分がそうだったからです。

- 1971年4月 日本輸出入銀行就職
- 1973年9月 シカゴ大学大学院
- 1975年 ブラジル鉄鋼拡張プロジェクトへの融資
- 1978年 大蔵省主計局との予算折衝

1980年 鉄鋼プロジェクトの審査
 1983年 ソ連向け融資
 1984年 ベクテル、ディロン・リード出向
 1986年11月 総務部業務課：銀行の融資の要
 1987年 5月 プロジェクトファイナンス
 1990年10月 国際金融情報センター出向
 1993年11月 輸銀復帰、アジア向け融資
 1995年 3月 OECD 金利問題交渉日本政府代表
 1995年11月 欧州向け融資・ウクライナ輸銀再建
 1997年 4月 プロジェクトファイナンス
 2000年 5月 国際審査
 2002年 3月 退職
 2002年 4月 麗澤大学
 2002年 5月 アイジック社長
 2003年 4月 産業技術総合研究所ベンチャー・サイバーアシストワン社長、愛・地球
 博への出展に成功
 2003年11月 東京電力顧問
 2006年 4月 麗澤大学キャリアセンター長
 2006年 6月 USS 社外取締役

この間に様々な政府、政府機関の研究会や審議会の委員や代表を務めました。記憶
 ははっきりしませんが、研究会の代表としてまとめた文献は20冊以上あると思います。
 すべて報告書に座長としての個人的見解を数十枚書きましたので、まとめれば相当な
 量になると思いますが、ずぼらを決め込んで本にしませんでした。大学の研究室を片
 づけながら、断捨離だなあと、すべて捨ててしまいました。また、20年来評議員
 を仰せつかっている（一財）外国為替貿易研究会の機関紙「国際金融」にコラムを執
 筆しています。どこかでまとめようと思いながらもこの雑誌も捨ててしまうことにな
 りますが、よく書いてきたものです。

最近ではロシアの巨大ガス会社ガスプロムの報告書に「サハリンプロジェクトをま
 とめた金融マンとしてロシア制裁以降の国際ガス情勢をどう見るか」を書いてほしい
 と言われ、英語の論文を出しました。これを見た方からの要請で環日本海研究所の英
 語の論文集に日口貿易に関する評論を書きました。ちょうど6年前から早稲田大学の
 劉傑教授に頼まれ、留学生向けの英語による修士課程で「日本経済論」を講義してき
 ましたので、近未来に自分なりの「日本経済論」を英語で書き下ろしてみたいと思っ
 ています。

このほか、篤志家で作られた奨学基金などの委員を仰せつかったり、いろいろなど
 ころでたくさんの方々のお世話になってきました。外国との関係でもたくさんの方々
 にお世話になりました。かつて、非常にお受けしたかった話がありました。ただ、上
 司を差し置いて、とサラリーマン根性丸出しでお受けしませんでした。中東のノーベ
 ル平和賞をもらった人の名前を冠した財団で、その財団を作るのに奔走した中東出身
 の人物が私に銀行員のまま財団の日本代表をやってくれないかと言ってきたのでした。

その後の中東情勢を思うにつけ、あそこにつながっていたら、面白い情報がいっぱい入っただろうなと思うことしきりです。

プロジェクトファイナンスの世界に長く身を置いていましたので、よく言うヘッドハントされたことも何度もありました。その辺は、またこれから先、いつかお酒でも飲みながらお話ししたいと思います。

たくさんの方のご厚意でいろいろな経験をさせてもらった人生でした。麗澤大学で、そのお返しがどのくらいできたのか自信はありませんが、これからも麗澤大学を応援していきたいと思っています。

2. 業績にかえて

上記のとおり、これまでの人生を振り返ってみますと、あまりアカデミックな仕事をしていたとは言えません。ただ、プロジェクトファイナンスという世界に、若い担当者の時代から課長、次長、部長と出たり入ったりしていたせいで、オタクっぽい世界では結構知られていたのかもしれませんが。そのおかげで、東大の大学院で留学生に英語でプロジェクト論を講義するとか、東京農工大で客員教授を頼まれ仕事の話をするとか、国際基督教大学でも同じことを頼まれるとか、ということがありました。シカゴ大学に留学した時から今に至るまでずっと長い付き合いのあるアメリカ人が書き下ろした金融問題の著書を監訳する機会もありました。

アカデミックな論文とか講演とか、少しあるのかもしれませんが、アドホックに頼まれてばらばらにこなしてきただけで体系だったものや専門性の高いものはありません。ずぼらを決め込んできちんと記録にとどめてもいけませんので、思い出すままにいくつか挙げれば、以下のようなものになると思います。

今頃になってこんな話をするのは恥ずかしいことですが、麗澤で16年間お世話になって、ようやく、調べたいこと、書きたいこと、何らかの形でアウトプットしたいことが見えてきたような気がします。前述の通り、自分なりの経験に基づいた「日本経済論」というか「日本論」を、それもできたら英語でまとめたいと思っています。学問の入り口らしいものがようやく見えてきたような気がします。人生これからという気持ちで研鑽を積みたいと思っています。

著書

『実践ゼミナール国際経済』（共著 東洋経済新報社、1993年）

『最新アメリカ金融入門』（監訳 日本評論社、1994年）

『プロジェクトファイナンス』（単著 CD Rom 土木学会、2003年）

『国際協力用語集』（第3版）共著 国際開発ジャーナル社、2004年

『国際ビジネスファイナンス』（監訳 麗澤大学出版会、2011年）

『私は、あなたを忘れない—聞き書き：学生たちが記録した東日本大震災』（監修 麗澤大学出版会、2012年）

『北東アジアのエネルギー安全保障』（共著、日本評論社、2016年）

論 文

「インフラ事業の海外展開と本邦企業の課題」(『運輸と経済』2011年6月号(財)運輸調査局)

The Future of Oil and Gas Project, *Gazprom Export Global Newsletter*, March 2015, Vol. 8

「ウクライナ輸出入銀行再建プロジェクトから見たウクライナの真実」(2015年7月、石油天然レビュー、石油天然ガス金属鉱物資源機構、

https://oilgas-info.jogmec.go.jp/pdf/6/6467/201507_019a.pdf)

Japanese Failure in Russian Business

---Looking back and Thinking over its Business Potential

The Northeast Asian Economic Review Vol. 4, No. 1, March 2016

「ウクライナ挫折の26年」2018年1月『ロシア・ユーラシアの経済と社会』ユーラシア研究所